

## 第三者意見



東京工業大学 名誉教授  
中崎 清彦 先生

本報告書では、まず、昨年度からスタートした「第7次中期経営計画」について振り返りが記載されている。初年度の連結損益は国際情勢の変化もあり減益となったとあるが、売上高は好調に推移し増収となっており、全体として堅調と見ることができる。また、売上増に貢献しているのは、カワイの高い技術に支えられた優れた製品が認められたものと考えられる。優れた製品であることは、「第8回仙台国際音楽コンクール」および「第5回高松国際ピアノコンクール」などの国際コンクールにおいてフルコンサートピアノ SK-EX の演奏者が上位を独占していることにもあらわれている。

引き続き、企業価値の向上のために欠かすことのできない環境・社会・ガバナンス (ESG) への取り組みと、グループ全体のサステナビリティ活動を推進することを目的とした、サステナビリティ委員会が設置されたことが報告されている。また、サステナビリティのための取り組みポリシーとそれに関連するSDGsについては、2ページにわたって、わかりやすく示されていることから、この2ページを見るだけでもグループの取り組みが俯瞰できる優れたまとめになっている。

なお、本年度の報告書から新規に掲載されている主な項目は、環境面では「TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) 提言に基づく情報開示」、社会面では「品質・顧客満足」、ガバナンス面では「取締役会の実効性評価」「BCP (事業継続計画)」である。

カワイは、これまでの報告書にも、すでに ESG についての

取り組みを先進的に情報公開してきているが、本報告書では、TCFD の提言を強く意識し、その提言に形式を合わせて、ESG の取り組みを経営戦略へ反映させることを明確にしたものになっている。また、品質・顧客満足に関しては、品質およびサービスの維持向上のために品質マネジメントシステム ISO9001 の導入を推進していることに加えて、「お客様相談室」、「お客様サポートサイト」を通じて顧客満足度向上の取り組みが行われていることが報告されている。さらに、ガバナンス面では取締役会の運営の改善・機能向上を目的とした、取締役会の実効性に関する評価、および今後も継続的に取締役会の機能を高める取り組みを行うことについても紹介されている。加えて、大規模地震等の緊急事態が発生した際に、従業員の安全を確保し、事業資産への被害を最小限に食い止めること、また、事業を継続させ、いち早く事業全体を全復旧させるための様々な対策や方法をまとめたBCPの策定についても記載されている。

以上述べたように、本報告書から、これまでもカワイが先進的に行ってきた ESG に対する取り組みを世界基準の方法に形式を整えて公開する (TCFD) ように進化させたことがわかる。これは、世界全体の環境問題への意識の高まりにより、企業の価値が財務状況以外の部分でも判断されるようになったことに対応するもので、カワイがその経営理念である「創造性豊かな好感度企業をめざして」の実現に向け、さらに、魅力ある企業として発展していくことと期待される。

### ■ 第三者意見をうけて

中崎先生には、本年度も第三者意見として、本報告書に対するご評価、貴重なご意見を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023 年度の報告書では「TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) 提言に基づく情報開示」として、「ガバナンス」「リスク管理」「戦略」「指標と目標」の4項目を開示しております。その中で、気候変動に対する当社のスタンスをご評価いただきましたことは大変喜ばしく、さらに気候変動への対応を積極的に推進してまいります。

また「第8回仙台国際音楽コンクール」「第5回高松国際ピアノコンクール」において上位入賞者をはじめ多くの方々にフルコンサートピアノ SK-EX を演奏して頂いたことをカワイの技術力・品質としてご評価いただいたことは大いに励みになるお言葉として受け止めております。

今後も自然との共生を大切に、文化貢献活動を一層推し進め、長期ビジョン「100年ブランドの確立」と持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めてまいります。

(カワイ地球環境委員会 事務局)